

付加価値で在宅医療の質を高める／医療事故調への対策は万全か

CLINIC 今日と明日の開業医をサポートする 最新クリニック総合情報誌 BAMBOO

ばんぼう

7 JUL.2015
VOL.412

ISSN 1345-0122

[特集] 前進なき診療所に明日はない!!

付加価値で差をつける 在宅医療

[第2特集]
Q&Aですべての
疑問・質問に回答

1時間でわかる!!
医療事故調査制度の
実態と対策

百 医 争 鳴

井出広幸 医療法人社団爽愛会
信愛クリニック院長

名郷直樹 医療法人社団実幸会
武蔵国分寺公園クリニック院長





リハビリテーション科

医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 医師と訪問リハビリ担当者が同時訪問し オーダーメイドリハビリを作成

Point!

①「差」がつくポイント
訪問リハビリに医師が同席し、患者・家族、リハビリ担当者とともに患者に合った明確な目標を設定し、オーダーメイドのリハビリプランを作成。3カ月おきに医師が訪問して患者の状態を確認する。

②費用対効果
患者・家族の満足度向上はもちろんのこと、リハビリ担当者からの相談・依頼件数も増え、訪問診療と合わせて在宅患者数は320人にものぼるなど、周囲からの高い評価を得ている。

③その他の効果
患者・家族の要望を踏まえ、より現実的な目標を設定することで、ただ単にこなすリハビリではなく、有効性のある効率的なリハビリが行える。

患者・家族の期待するイメージとアウトカムとのギャップによる文句など、訪問リハビリにはクレームが多い。そのためリハビリスタッフのなかには訪問リハビリに不安があり、控えようとする例が少なくない。医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニックの在宅医療部が取り組む「オーダーメイドリハビリ」ではこうした問

題を見事に解決している。ここではその具体的な取り組みや効果を紹介する。

患者一人ひとりに合った目標を設定してリハビリを実践
東京都世田谷区に位置する医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニックは、2009年に在

宅医療部を設立し、在宅療養中の多くの患者を支援している。特筆すべきは昨年より力を入れている、訪問リハビリだ。
患者・家族の期待に沿えなかった際のクレームや、リハビリ時の血圧の変動など、予期しないことが起きることもあるため、訪問リハビリを不安に思うスタッフは少なくない。

「それは難しい」ときちんと伝え、実現可能な目標を提示している。「非現実的な目標設定は、患者さんとご家族の期待を損ねてしまうだけです。さらには無謀なリハビリになってしまいうえ、効率性もよくありません。より現実的な目標を設定することで、それに向けた効率的なリハビリを行うことができるのです」と、袴田智伸医師

は話す。

患者、家族、医療者全員でのリハビリが重要

実際にリハビリを開始する前に関節や筋肉の痛みがあるかを確認し、それらがリハビリの妨げになると判断した場合は、関節注射、トリガー注射、神経ブロック注射、ボトックス注射などの医療的処置も検討する。医療手技を行う際には訪問医と訪問リハビリスタッフで治療部位を確認し、適切な治療を行うという。

その後は医師とリハビリスタッフが電話や書面で連携し、患者の状態や、リハビリの進行状況などの情報共有を行う。さらにリハビリの開始から3カ月おきに医師が患者宅を訪問し、現状を把握

するのだ。目標達成時には患者の身体状態を評価し、今後のリハビリについては患者・家族、リハビリスタッフとともに検討する。オーダーメイドリハビリを行ったすべての患者が目標を達成できるとは限らない。しかし、同院への患者・家族からのクレームはほぼない。これはともに決めたゴールに向けて、最善を尽くした結果として受けとめてくれるため、患者・家族も納得をしてくれるのだという。

オーダーメイドリハビリは患者・家族だけでなく、リハビリスタッフからの関心も高い。その証拠に連携先以外のリハビリスタッフからの相談が後をたたく、同院への在宅リハビリの依頼件数が増加。訪問診療と合わせると現在の在宅患者数は約320人となり、同院の経営基盤にもなっている。
袴田医師は今後の在宅リハビリに対する取り組みについて、「患者さんが在宅で過ごすなかで、リハビリは基本であり、なくてはならないものです。ですが実際には、在宅医療のなかで治療ばかりが重視され、リハビリは置き去りにされている感があります。だからこそ、リハビリを治療の一環として含め、在宅におけるリハビリの重要性を広めていきたいと思えます」と意欲を見せる。

付加価値で差をつける在宅医療

患者宅で訪問リハビリを行う様子
↓ 医師とリハビリ担当者が治療部位を確認し、医療手技を行う



その後は医師とリハビリスタッフが電話や書面で連携し、患者の状態や、リハビリの進行状況などの情報共有を行う。さらにリハビリの開始から3カ月おきに医師が患者宅を訪問し、現状を把握

医療法人社団プラタナス
桜新町アーバンクリニック
東京都世田谷区新町3-21-1 2階
TEL: 03-3429-1192
URL: http://www.plata-net.com

在宅医療部
東京都世田谷区用賀2-15-5 2階
TEL: 03-5716-5220
在宅患者数: 320人

表 オーダーメイドリハビリ作成時に必要な要素

SMART Goals
Specific: (具体的に)
Measurable: (測定可能な)
Attainable: (達成可能な)
Relevant: (現実的な)
TimelyBased: (時間制約のある)

こうした不安が原因となつて、リハビリを控えてしまう例が頻繁に起きているという。

この問題を打開するため、同院が昨年、スタートさせたのが「オーダーメイドリハビリ」だ。

まずリハビリを開始する前に、医師とリハビリスタッフが一緒に訪問し、患者の生活、身体状況などを評価する。その後、SMART(表)に沿って患者・家族と1時間ほどコミュニケーションを図り、「自力で座れるようになりたいのか」「歩けるようになりたいのか」などの具体的な要望をもとに、3~6カ月をめぐりに目標設定を行う。こうして「オーダーメイドリハビリ」のプログラムが出来上がる。ただ、「寝たきりの患者を1人で歩き回れるようにしてほしい」などの現実的ではない要望に対しては、